

DXへのアプローチ実践研修



株式会社アイデミー

会社概要 (株式会社アイデミー)

代表取締役	石川 聡彦 (Akihiko Ishikawa)
会社理念	先端技術を、経済実装する。
所在地	〒101-0052 東京都千代田区神田小川町1-1 山甚ビル3F
技術アドバイザー	國吉 康夫 (東京大学大学院情報理工学系研究科 教授) 木下 祐介 (東京大学大学院工学系研究科 准教授)
ワークショップ アドバイザー	川越 至桜 (東京大学生産技術研究所 准教授)
株主	経営陣, 東京大学エッジキャピタルパートナーズ(UTEC), Skyland Ventures, 大和企業投資, ダイキン工業, テクノプロ, 古河電気工業, 日本ゼオン, 東京大学協創プラッ トフォーム開発(東大IPC), 千葉道場ファンド, KDDI地方創生ファンド, 個人投資家
資本金	8.0億円 (2022/8/31時点、資本剰余金含む)
従業員数	99名 (2022/8/31時点、アルバイト含む)

加盟団体

Keidanren
Policy & Action

JSAI 一般社団法人
人工知能学会
The Japanese Society for Artificial Intelligence

一般社団法人
日本ディープラーニング協会

THE JAPAN DATASCIENCE SOCIETY
MEMBER

CDP
ACCREDITED
PROVIDER
2022

導入企業

DAIKIN

FURUKAWA
ELECTRIC GROUP

三井金属

AISIN

日本ガイシ
NGK

AsahiKASEI

三井化学

KOEL 1917

TECHNOPRO

UCHIDA

NTT DATA

NS Solutions

SEIKO
セイコーソリューションズ株式会社

SOMPO システムズ

大和証券
Daiwa Securities

mazda

DXへのアプローチ実践研修 とは？

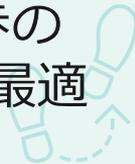
大企業を中心に、多くのクライアント様のDX推進をご支援してきたアイデミーが提供する「DXの入門講座」

POINT

01.

予備知識が不要

DXを推進するための
はじめの一歩の
アプローチに最適



POINT

02.

**3時間で
基礎を学びきる**

知っておきたい
基本知識を講座に
惜しみなく凝縮



POINT

03.

**手を動かす
時間がある**

聴くだけでなく
アウトプットでの
知識定着を図る



DXへのアプローチ実践研修 受講後の変化イメージ



DXが何かを
明確にわからない



DXの本質・必要性
がわかる！



DXが必要な
ビジネス環境を
理解した状態へ



よく耳にする
"デジタル技術"が何を
含んでいるかわからない



DXに関連する主要な
デジタル技術がわかる！



DXに不可欠な
デジタル技術の種類・
内容を理解した状態へ



DX推進で自分の立場で
何をすべきかがわからない



DXプロジェクトの進め方
・自分の役割がわかる



DX推進する上で
自分に取り組める内容を
理解した状態へ

DXへのアプローチ実践研修 研修プログラム

1 「DX」について知る

1. そもそもDXとは？
2. 今DXが求められる理由は？
3. デジタル化がもたらす社会の変化
4. DX事例紹介

2 主要なデジタル技術

1. AI（人工知能）
2. IoT
3. クラウドコンピューティング
4. RPA

3 DXプロジェクトの進め方

1. DXプロジェクトの進め方
2. 問題発見
3. 課題設定
4. 概念検証（PoC）
5. 本開発・運用
6. システム開発の外注におけるポイント

4 DX実現のための役割分担・すべきこと

1. プロジェクトマネジメント人材
2. 経営者
3. DX推進責任部署
4. 各事業部門
5. 人事部門

5 アイディアワークシートの記入

DXへのアプローチ実践研修
アイデアワークシート

業務内容(Task)

問題(Problem)

原因(Cause)

解決策(Solution)

実現性(Possibility)

コスト削減(Cost)

アイディアワークシート記入例 (製造業のバックオフィス業務)

業務内容(Task)

発注書を元に請求書作成

- ・発注書(PDF)を元に、発注情報を受発注管理システムに手入力し、請求書を作成している
- ・請求書作成後は、発注書に記載されている担当者メールに請求書を送付している

問題(Problem)

月末に受注が集中しており、
毎月時間外労働(月約10時間)が発生している

原因(Cause)

手作業による発注情報の入力

解決策(Solution)

RPAの活用

1. 発注書(PDF)の記載内容を自動でデータ化し、発注書リスト(Excel)を作成する
2. 発注書リスト(Excel)を受発注管理システムに読み込ませる
3. 読み込んだ発注情報・担当者情報を元に月末に請求書のメール送付

実現性(Possibility)

社内にRPAが導入されていないため、RPAの選定・導入をする必要がある(請求書作成以外でもRPAで効率化出来そうな業務を棚卸ししてから、社内稟議をする必要がありそう)

コスト削減(Cost)

請求書作成・メール添付の毎月のコストは、500,000円
(1件約15分 x 月1,000件=250時間、時給2,000円と仮定)
RPAの活用により、作業時間を現状の約8割にできたと仮定すると、400,000円のコスト削減に繋がる

よくある質問

Q.

全くの初学者でも
受講はできますか？

A.

出来ます！
初学者の方も
予備知識なしで
ご受講いただけます。

Q.

参加者のスケジュール
調整が難しいです。
録画は可能ですか？

A.

録画ができる
オプションを
ご用意しています。

Q.

内容のカスタマイズは
可能ですか？

A.

ご相談ください！
内容によって
対応しています。

DXへのアプローチ実践研修 費用

基本費用

500,000円(税抜)

参加人数：100名まで
オンラインでの実施

追加費用

101名以上
の場合

**100名ごとに
+50,000円**(税抜)

プログラム内容
カスタマイズ

+500,000円(税抜)

録画オプション

+500,000円(税抜)



お問い合わせ等ございましたら、
お気軽に営業担当者にお申し付けください

株式会社アイデミー 法人事業部
電話：03-6868-0998（平日10:00 - 17:00 受付）
メール：support@aidemy.co.jp